

病害虫発生予察特殊報第4号

平成17年10月5日
三重県病害虫防除所

ミナミトゲヘリカメムシは本県でも従来から採集されていましたが、今回初めてカンキツへの被害が確認されましたので特殊報として発表します。

- 1 病害虫名 : ミナミトゲヘリカメムシ
学名 : *Paradasynus spinosus* Hsiao
- 2 発生確認作物名 : ミカン (早生温州)
- 3 発生確認地域 : 東紀州地域

4 発生確認の経過

もともと南方系のカメムシですが、国内では1970年代に鹿児島県でミカン果実を加害しているのが発見されて以来、現在では沖縄から太平洋沿岸を中心として関東(東京)まで分布しており、沖縄から九州にかけてカンキツ類の害虫になっています。福岡県では、カキへの加害も報告されています。

本県でも1970年代に発生が確認されていましたが、これまで果樹への加害例は知られていませんでした。

本年9月14~26日にかけて、熊野市、南牟婁郡御浜町、南牟婁郡紀宝町のミカン園において果樹カメムシ類によると思われる被害果が発見され、被害果周辺からミナミトゲヘリカメムシ成虫が採集されました。9月29日には御浜町において、成虫の吸汁行動と2齢幼虫の寄生が観察されたので、本種による加害であることが確認されました。

5 特徴

(1) 被害の状況

被害果は健全果に比べて着色が促進され、一見早熟果と間違えます。果実外観の観察のみでは、加害、吸汁による被害部分は不明瞭で確認できません。紀宝町の被害発生園地では、落果が確認されました。

御浜町で採集した被害果の果皮をむくと被害部の果肉が白く変色してスポンジ状になっているのが観察されました。

(2) 形態

細長い大型のカメムシで、成虫は体長16~23mm、背面は褐色で、前胸背の側角が棘状となり、前側方に突出しています。

(3) 生態

御浜町志原カンキツ園地(紀南果樹研究室圃場内)において、平成16年と平成17年4月中旬から5月中旬にかけて越冬個体と思われる成虫が確認されたので、東紀州地域に広く分布し世代を繰り返していると考えられます。

しかし、冬期にはカンキツ園地では採集されないなど当地域における越冬場所、寄生植物は不明です。なお、沖縄県では成虫での越冬が観察されています。

6 防除対策

該当樹種の果樹カメムシ類に登録のある薬剤を使用してください。



図1 成熟果上の成虫



図2 早生温州を加害中の成虫



図3 被害果の異常着色



図4 スポンジ状になった果肉(白っぽい部分)



図5 ミカン樹上で確認された卵塊



図6 ミカン樹から採集された2 齢幼虫